

(別紙)

令和5年度防災啓発業務イベント例

イベントについては、下記を参考としつつ、工夫を凝らした企画を提案すること。

ア	「非常食がごちそうに？」もしものときの非常食のアレンジレシピ料理教室 非常食は普段食べるものではない、おいしくないなどの先入観から、備蓄が推進されないと考え、非常食も商品やアレンジ次第でごちそうになることを啓発し、備蓄を推進する。
イ	「どう快適に生活する？」水や電気が限られる避難生活を意識したアウトドア体験 工夫次第で避難生活を快適に過ごすことができ、アウトドアの知識が生きることを啓発する。
ウ	外所地震の津波ってどこまできたの？ 供養費ツアー 南海トラフ地震による津波災害に備えるため、本県で過去に大きな被害があった外所地震の津波被害を学ぶ機会をつくる。
エ	防災ワークショップ（非常持出袋作成、防災クロスロードなど） 非常持出袋を作成したり、震災の体験談をもとにつくった様々な問題をどう判断するかなど、知識が身につくクロスロード体験により、防災を考えるきっかけをつくる。
オ	防災用品展示、使い方講座（地元企業提携など） 防災用品を展示する。地元企業と連携し、防災用品の紹介や、使い方講座を実施する。
カ	防災マップづくりワークショップ（小学校） 学校に協力してもらい、小学校周辺の危険箇所の確認や、避難場所を記したオリジナルマップを作成する。作成した作品は、宮崎県防災庁舎1Fロビーに掲示する。
キ	学生の車椅子避難体験（県政番組「KAIGOへGO」との連携など） 要配慮者が避難時にどのようなことで困るのか、実際に介護の仕事を目指す学生などに体験してもらい、県政番組とタイアップすることで相乗効果を図る。
ク	車中泊避難の実例、注意点 企業と連携し、車中泊避難の実例や、注意点の喚起など、上記オなどのイベントと組み合わせて啓発する。
ケ	一日前プロジェクト紹介 語り部を講師として招き、災害の体験について講演を実施。 災害時に何を備えておけば良かったかなど実際の体験談を知ること、本県の方にも災害を自分ごととして捉えてもらい、備えにつなげる。
コ	私の防災アクションキャンペーン（仮） 台風シーズンを前に、SNSを活用し、「#（ハッシュタグ）私の防災アクション（仮）」などとテーマを決め、多くの人の災害への備えを共有することで、県民全体の相乗効果を図る。キャッチコピーは業者提案とする。